

平成 23 年度

環境省

「びんリユースシステム構築に向けた実証事業」

九州圏におけるびんリユースシステム構築事業
事業報告書

事業主体

Rびん推進九州プロジェクト

(1) 事業の名称

平成 23 年度 環境省 びんリユースシステム構築に向けた実証事業
九州圏におけるびんのリユースシステム構築事業

(2) 事業の目的

現在、南九州では環境省より平成 15・16 年度に採択された「南九州における 900ml 茶びんの統一リユースシステムモデル事業」を平成 22 年度まで継続して実践をしています。

平成 16 年 4 月に 1 社からスタートした 900ml 茶 R びんは、平成 22 年実績で 11 社が採用され約 150 万本が全国に出荷されている。九州圏では約 81 万本が出荷され 70%程度が回収され再使用されていることなど一応の成果を上げているのが現状である。この南九州のリユース事業は 900ml R びんだけではなく低迷していた 720ml R・500ml R・300ml R 等のリユースびんの全国規模での需要拡大に波紋を投げかけていることも事実である。

しかし、南九州地域中心の展開ではメーカー・流通・酒卸・小売・量販店・業務店・消費者・自治体等にとってのメリットが小さいのが大きな課題である。今後、この現状を打破するためには、各ポジションにおいてのメリットを拡大していくことが重要で、すなわち南九州のリユースびんシステムを段階的に九州全体のシステムに広げることが必要なのです。

そのためには、九州での一大消費地福岡県(人口約 500 万)を交えた、九州圏での縦軸(福岡・熊本・鹿児島)の静脈的流れ(一升びんの流れ)を、中小びんも含めて大きくすることがポイントだと考えられます。そのためには当然大手を含めた、できる限り複数のメーカーの賛同が必要になります。

今回の実証事業の大きな目的として、南九州で取り組み始めたリユースびん事業を、リユースびん普及を望まれている酒類卸、小売・量販店・業務店・一般消費者・自治体等の意見を集約し、清酒・焼酎メーカー各社にリユースびん事業についての理解を共有していただき、九州圏でのリユースシステムの確立を図ることが狙いであり、確立すれば全国各地に波紋が広がるのが期待できる。

(3) 事業の実施体制及び内容

●リユースシステムの検討

本事業は、南九州で取り組み始めたRびん推進事業を九州全体に広げるため、九州圏で縦軸(福岡・熊本・鹿児島)のリユースシステムの流れを構築することである。

そのために、九州圏での一大消費地(福岡市 人口約150万人)での、ボトラー(清酒・焼酎)、酒類卸、酒類小売、業務店(居酒屋等)、びん商等がリユースシステムを構築することが必要で、九州硝子壘商業組合内に、「Rびん推進九州プロジェクト」チームを編成し事業の検討を行った。

①プロジェクトチームの編成

- ・リーダー (株)田中商店 専務取締役 田中(熊本県)
- ・サブリーダー (有)筒井商店 専務取締役 林田(長崎県)
- ・メンバー (株)光陽 常務取締役 倉本(福岡県)
- ・メンバー (有)池田空壘 代表取締役 池田(宮崎県)
- ・メンバー (株)長松商店 専務取締役 長松(大分県)

※アドバイザー 熊本学園大学 社会福祉学部 教授 宮北隆志氏

②事務局の設置

水俣市 浜松町5番8号

株式会社 田中商店 水俣営業所内

Rびん推進九州プロジェクト事務局 TEL 0966-69-2711

③事業の実施地域

福岡市

④Rびん推進事業内容の決定

- 1、「福岡地域におけるリユースびん推進会議」を二回実施する
- 2、Rびん推進チラシを作成し、各種団体により配布していただき、リユースびんの認知度を向上させる
- 3、Rびん応援店(居酒屋・酒販店対象)を募集し、緑提灯を抽選でプレゼントする
- 4、ボトラーへRびん推進の働きかけ

⑤福岡市におけるリユースびんの実態調査(田中・倉本)

- ・酒類販売卸店、業務用酒類販売店の現地実態調査及びヒアリング
- ・居酒屋、居酒屋チェーン店の現地調査及びヒアリング
- ・福岡市小売酒販組合(3組合)の実態調査及びヒアリング
- ・福岡地域におけるびん商の実態及びヒアリング

⑥福岡地域におけるリユースびん推進会議の構成メンバーを決定する

ボトラー・酒類卸・酒類小売・びん商・環境団体・消費者・居酒屋・生協・自治体

(4) 事業の実施スケジュール及び狙い

10月～2月 Rびん推進九州プロジェクト会議の実施

10月～2月 Rびんチラシ(作成数7,000枚)
Rびん応援店募集チラシ(作成数2,000枚)
びん提灯の作成・配布(作成数150コ)

※ 配布方法は業務用酒販店ルートで実施予定

10月～11月 福岡地域における酒類卸・小売・居酒屋・びん商等の実態調査及びヒアリングの実施(田中・倉本)

11月28日 「第一回福岡地域におけるリユースびん推進会議」の開催

●場所 福岡合同庁舎 本館1階 共用第一会議室

●会議案内者 ボトラー・酒類卸・酒類小売・居酒屋・生協・環境団体・
市民・九州地方環境事務所・九州経済産業局・福岡県・福岡市など

【狙い】福岡地域におけるリユースびんの現状を、事務局での実態調査及びヒアリング報告及び互いの意見交換を通して、現況について認識していただき、リユースが普及する為のアイデア・知恵を集約し、リユースシステムを確立する為の条件を共有化する

12月～1月 大手焼酎メーカーに対してのヒアリングを実施

【狙い】リユースびん推進ついでの方角性を説明するとともに、第一回福岡リユースびん推進会議の報告並びに本格焼酎のリーダー的存在として、前向きにリユースびん推進を検討していただく

12月15日～1月15日

Rびん応援店募集期間

2月16日 第二回福岡地域におけるリユースびん推進会議」の開催

●場所 福岡合同庁舎 本館5階 共用第五会議室

●会議案内者 ボトラー・酒類卸・酒類小売・居酒屋・製びんメーカー・
P箱レンタル・生協・環境団体・市民・九州地方環境事務所・
九州経済産業局・福岡県・福岡市など

【狙い】福岡地域のリユースびんシステム構築に向けて、各ポジションの方々の合意形成を実現する

(1) 事業の実施

本事業を推進する為に、九州硝子壺商業組合内にプロジェクトチームを編成した。(メンバーは、びん商5名で構成。)業務としては、各主体の役割分担の決定及び事業内容の検討、事業実施のスケジュールの決定、事業実施状況の把握、事業の評価と課題検討などを担当し、Rびん認知度向上のためのRびんチラシを酒販店等ルートで配布(5,000枚)した。また、Rびん応援店募集チラシを同じルートで配布(1,800枚)し、応募者全店にRびん応援提灯(緑提灯)を贈呈(16コ)した。

また、福岡地域の酒販卸、小売、居酒屋、回収業者(びん商)等の実態調査及びヒアリング調査報告と同時に、11月28日「第一回福岡地域におけるリユースびん推進会議」を実施した。Rびん採用メーカー、酒類卸、小売、びん商、環境団体、市民、生協、管轄省庁、自治体等の参加をいただき、現状の共通認識からRびんを推進するための問題、課題等を整理し、Rびんの必要性について一定の合意形成をいただいた。

その後、大手焼酎メーカー3社へ、第一回目のリユースびん推進会議の報告とともに、Rびん採用に向けて働きかけを試みてはいるが、コスト負担や採用メリット等の諸問題があり、合意いただけていない。

2月16日に「第二回福岡地域におけるリユースびん推進会議」を第一回目の参加者に製びんメーカー、P箱レンタル会社を加えて実施し、Rびん推進事業を永続的に福岡地区で行うことについて賛同いただいた。

本事業では、この会議で大手焼酎メーカーに参加していただき、Rびんの採用及び福岡地域でのびんリユースシステム構築の合意をいただくことが目標だっただけに、とても残念である。

しかし、本事業で得られたリユースびんを推進するニーズは南九州だけではなく、大消費地福岡市でも感じる結果となった。今後は、Rびん消費の多い南九州を中心に採用いただける仲間を増やす努力や各県にRびん情報を流し、九州圏のびんリユースシステムを地域のさまざまな方々に賛同していただきながら確立することを目指すべきである。

(2) 事業の成果

●びん商の連携

Rびん推進九州プロジェクトチームの編成により、一つのテーマに向けてびん商が連携して事業に取り組んだこと

●二回の福岡地区におけるリユースびん推進会議の開催

びんリユースに特化して、現状の廃棄物問題を解消しリユースシステム構築に必要な意見交換ができたことにより課題・問題点が明白になり、1、福岡地区の実態が把握できた 2、会議開催を通して関係者との合意形成ができた 3、次年度以降の実施する体制が整った。

推進会議を通じて「Rびんを広めよう会・福岡（仮称）」や「Rびんを広めよう会・鹿児島（仮称）」といった動きも生まれている。

- Rびんチラシ・Rびん応援店募集チラシ・Rびん提灯の配布、キャンペーンツールの整備
Rびんチラシ、Rびん応援店（緑提灯）の配布により、日常、環境問題に関心の薄かったエンドユーザー（居酒屋・一般消費者）へ、リユースびんについての啓発を実施、認知・意識の向上が図られた。
また、本事業において、今後も継続して利用できるキャンペーンツールが整備された。

(3) 今後の検討課題

- リユースびんの普及
チラシ・Rびん提灯等のRびんのキャンペーンツールを使って、九州圏の地方自治体、酒類卸、小売店、関係団体を通じて対象地域の各業界方面、一般消費者にリユースびんの更なる普及啓発を行う
- Rびん採用清酒・焼酎メーカーの拡充
九州硝子壺商業組合加盟の各県のびん商を通じて、また各地域の酒類卸、業務用酒販店等の協力を得て、ヒアリング等を行いながら清酒・焼酎メーカーに要望を出して協力を仰ぐ
- リユースびんを推進するための円卓テーブルを創る
今回の福岡地区リユースびん推進会議のように、さまざまなポジションの方々が集まり、リユースびんに特化をして意見交換をしたが、永続的に推進会議を行うことや、福岡県全体に広げることと九州各県に広げることが重要だと考える

(4) 事業終了後の展開

引き続き平成24年度以降もリユースびん推進事業は取組む予定である

- Rびん推進実施地域の連絡調整窓口を創る。
- びんリユース推進全国協議会と連動して、全国に情報を発信する
- 各県で「Rびん広めよう会」（仮称）の結成を支援する
- Rびん使用量の多い南九州で採用メーカーを増やす
- Rびん採用メーカーの商品をグリーン購入商品として紹介・PRする
- 九州管内の清酒・焼酎メーカーのびん使用状況調査を実施。
- グリーン購入ネットワーク九州との連携を図る

添付資料

- 福岡地域におけるリユースびん推進会議 名簿
- Rびんチラシ
- Rびん応援店募集チラシ
- 居酒屋向けRびんチラシ
- 福岡地区における実態調査・ヒアリング調査資料（Rびん推進九州プロジェクト）
- 「第一回福岡地域におけるリユースびん推進会議」議事録
- 「第二回福岡地域におけるリユースびん推進会議」議事録
- 福岡地区Rびん推進会議の写真（2枚）
- Rびん応援店を掲げた居酒屋写真（2枚）

平成 23 年度

環境省

「びんリユースシステム構築に向けた実証事業」

九州圏におけるびんリユースシステム構築事業

事業報告書別添資料

事業主体

Rびん推進九州プロジェクト

「福岡地域におけるリユースびん推進会議」
メンバー

【推進会議メンバー】

学識者	熊本学園大学 社会福祉学部 教授	宮北 隆志
酒類卸	ヤマエ久野 株式会社 酒類福岡支店長	春田、小西
酒類小売	株式会社 ダンガミ 商品課	三好
	株式会社 オーリック	黒木
取組事業者	大口酒造株式会社 専務	向原
消費者・ 地元団体	ワーカーズ・ごみ問題研究会	片山
	環境パートナーシップ九州 事務局	澤
	日本環境衛生センター西日本支局	星野
生協	グリーンコープ連合	白木、末次
行政	環境省 九州地方環境事務所 廃棄物・リサイクル推進課	原、森
	経済産業省 九州経済産業局 資源エネルギー環境部 リサイクル推進課	村上、西下
オブザーバー	福岡県環境部循環型社会推進課 リサイクル係	仙波 藤井
	福岡市環境局循環型社会推進部計画課	木下
	びんリユース推進全国協議会 事務局長	小沢
	ガラスびんリサイクル促進協議会 事務局長	幸
	日本耐酸壘工業株式会社 福岡支店	浅野
	株式会社フーズコンテナ	中村
	株式会社エム・デー	中嶋
	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株)	加山

(※以上、敬称略)

【事務局】

九州硝子壘商業組合 Rびん推進九州プロジェクト	株式会社 田中商店 専務	田中(熊本県)
	株式会社 光陽九州支店 支店長	倉本(福岡県)
	有限会社 池田空壘 社長	池田(宮崎県)
	有限会社 筒井商店 専務	林田(長崎県)
	株式会社 長松商店 専務	長松(大分県)

我が輩はR^{アール}びんである。

リサイクルより、さらに一歩進んだリユースへ。それがRびんです！
Rびんだと、なにが違うの？
これまで私たちが使っていた使い捨ての容器（ワンウェイ）と違い、Rびんは洗えば何度でも使えるため、環境負荷がとて少ないのです。しかも、空きびんをお店に持っていけば、有料で引き取ってもらえます。このシステム、何かと似ていませんか？そうです、一升瓶やビール瓶と同じなんです。近ごろトボトルに取って代わり日本に根付いた伝統的な日本の良き伝統を、マッチする五合瓶（900ml）らせたのが、このRびんな

何度もリユースされるのでR^{アール}びん！



私たちに、まずできること。Rびんを選びましょう！



Rびんの仲間たち

九州硝子壺商業組合
Rびん推進九州プロジェクト(株式会社田中商店内)

TEL.0966-69-2711 FAX.0966-69-2712

協力/環境省 九州地方環境事務所

《なぜ、^{アール}Rびんでしょう》

Rびんって、なに？

RびんのRとは、環境問題を考える上で欠かせない3つのR(リデュース、リユース、リサイクル)のうちの“リユース(使えるものを、繰り返して使う)”のことです。リサイクルはごみを資源として再活用すること、リユースは使えるものは何度でも使うこと、そしてリデュースはそもそもごみを出さないこと。

この3つのR、実は国(環境省)もすでに取り組んでいます(『3R推進キャンペーン』のサイト <http://www.env.go.jp/earth/3r/campaign/campaign.html>)。

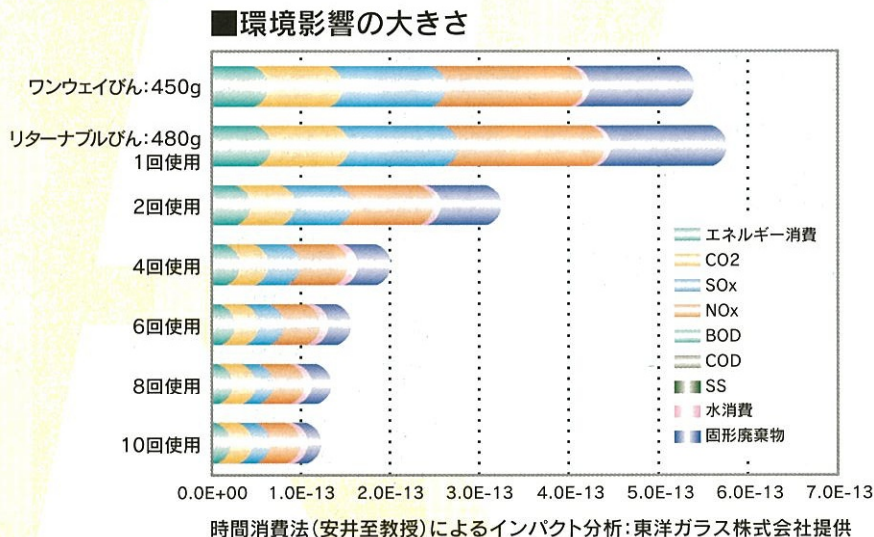
リサイクルも大事ですが、リサイクルには膨大な資源(石油、電力)が必要です。それに対してリユースは、環境への負担も少ない一歩進んだ考え方です。

リサイクルより、さらに一歩進んだリユースへ。それが**Rびん**です!

使えば、使うほど、Rびん!

Rびんは、回収して洗浄すれば何度も使えます。右のグラフをご覧ください。Rびんを使い捨てのワンウェイびんの環境に与える大きさを比較して見ると、1回だけ使用するならワンウェイびんのほうがわずかに環境負荷が小さいことが分かります。しかし、繰り返して使用するうちに、Rびんの環境負荷はどんどん小さくなるのが分かるでしょう。

Rびんは、地球に優しい容器なんです。



私たちに、まずできること。**Rびん**を選びましょう!

Rびんのメリットって？

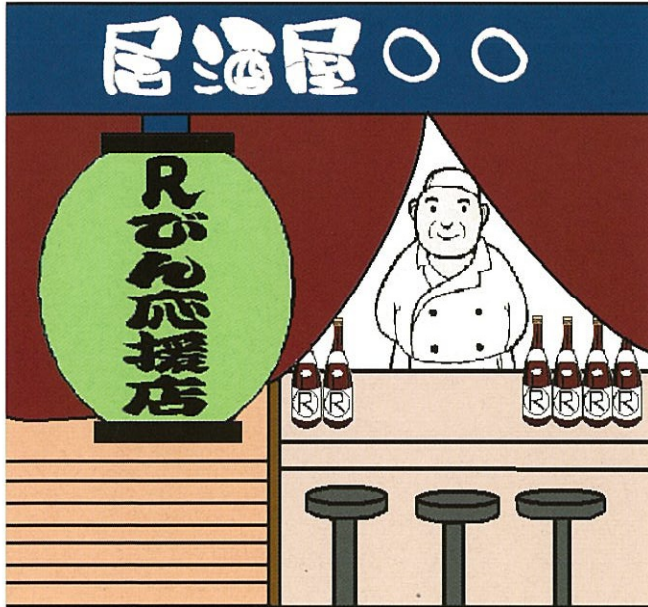
1. 行政/容器包装リサイクル法(容リ法)に基づくごみの収集・選別・保管をメーカーに代わって行う必要がなくなるので、むだな税金を使わなくて済みます。
2. 市民(私たち)/税金を納めている私たちにとっても、ごみの減量は深刻な問題です。酒屋さんに行ったら、「Rびんはありますか?」そのひと言が、明日の環境をつくれます。
3. メーカー/すでに国も3Rに取り組んでいます。今後は、メーカーも自社製品から出るごみについて、いままで以上に厳しく社会責任が問われることになるでしょう。Rびんを導入することによって、社会責任を大きく果たすことにつながると考えられます。



だから、**Rびん**!

Rびん応援店募集

～居酒屋の店頭にて提灯を飾ってRびんを応援しよう～



Rびん(リユースびん)は「R」のマークが目印です

別紙チラシのリユースびんを推進していただく応援店を募集します。

抽選で100件のお店に「Rびん応援提灯」をプレゼントいたします。ぜひ店頭にて飾ってください。

尚、提灯の送料はRびん推進事務局で負担いたします。

応募要項

- ・対象店 福岡市内の居酒屋・居酒屋チェーン店・酒小売店
(※チェーン店の応募については店舗数を記入願います。)
- ・応募期間 平成23年12月10日～平成24年1月15日
- ・提灯発送 平成24年1月15日～
- ・申込方法 Rびん推進九州プロジェクト事務局へFAXにて申込み下さい。

応募用紙

店名	
住所	〒
T E L	
ご担当者名	

問合せ先
九州硝子壺商業組合
Rびん推進九州プロジェクト事務局
熊本県水俣市浜松町5-8 (株式会社田中商店水俣営業所内)
TEL:0966-69-2711 FAX:0966-69-2712

びんリユース 応援のお願い

福岡地域におけるリユースびん推進会議

平成24年1月13日版



全国各地で一升びんの子どもが誕生しています

一升びんの子どもって、何のこと？

九州では900ml、東北では720mlの
リユースびんが生まれています

びんリユースとは、一度使用したびんを回収・洗浄し、くりかえし利用することです。

日本には100年以上も昔から一升びんやビールびん、牛乳びんに代表されるびんがリユースされ親しまれてきました。

回収されたびんは、洗浄・殺菌を経て、再び中身が詰められ、再使用されます。ごみにならず、原料や製造エネルギーの節約にもなるので、環境面でのメリットが改めて見直されています。



「リユース」と「リサイクル」の違いをご存知ですか？



リユース

一度使ったびんを、洗浄し、
検査し、もう一回使うこと。



リサイクル

びんを割り、高温のエネルギーを
かけて原料に戻し、新しいびんを
もう一度作ること。

飲食店様こそが リユース推進の主役です!

飲食店様に応援いただくことで、びんのリユースが推進されます。また、それだけではなく、従業員の環境に対する意識も向上し、一味違うお店となります。追加的な負担はほとんどありません。



びんリユースを応援するメリットとは？

廃棄物の削減

資源の節約

CO2排出量の削減

お客様評価の向上

ワンウェイびんの処理コストの削減

びんリユースを応援してください！

「1回使って廃棄・リサイクル」の流れを止め、「くり返し使うリユース」へとするためには、飲食店の皆様の応援が不可欠です。

びんリユースの推進のため、以下の取り組みにご協力をお願いいたします。

- リユースびんの商品の積極的な仕入れ・購入をお願いします。(別紙参照)
(リユース商品は“中身は美味しく、ボトルはエコ”)
- プライベートブランド(PB)商品があれば、中身メーカーと相談のうえ、リユースびんへ変更の検討をお願いします。
- キープボトルは、マジックでびんに直接名前を記載しないようお願いします。
- 保管時にキズが付かないようP箱の使用をお願いします。
- リユースの普及促進に向けた取り組みの応援をお願いします。

環境省モデル事業の一環で、「Rびん提灯」を配布し、協力店を応援しています。



平成 23 年 12 月 15 日

Rびん推進九州プロジェクト事務局

平成 23 年度環境省「びんリユースシステム構築に向けた実証事業」

福岡地域におけるリユースびん推進についての報告

【福岡地域におけるRびんの実態や意見】

今回の環境省事業を推進する上で、居酒屋・酒卸・酒小売・びん商・自治体等の廃びんの処理についてヒアリング及び実態を調査した。

<居酒屋>

- ・廃びん処理は、酒小売店にて商品配送時に持って帰っていただいているので、現状では費用負担もないが一升びん・ビールびんと同じように4合・5合びん等もP箱で納品していただき、空びんも同じ箱に入れて回収していただいた方が効率性や保管スペースが有効に活用できるので望ましい。
- ・使い捨て容器が多くなっているため自治体のごみ処理費用が高くなっている。私たちの税金で処理されている現状を考えれば、メーカー（発売元）の回収責任は当然の義務ではないかと考える。
- ・景気低迷で居酒屋経営も厳しくなっているため、リユースびんを増やして若干でも手数料をいただきたい。

<酒卸>

- ・酒卸は高度成長時代は酒類だけで食べていけたが、大店法改正・大型量販店の展開・酒類小売免許の距離規定の廃止などの規制緩和に伴う酒小売店の減少、また近年ではコンビニ・ドラッグストアなどの販売店が急増しているため、食品業界等ともタイアップしないと卸として生き残ることができないのが現状である。
- ・びん容器が主流の時代は酒卸としての価値が存在したが、使い捨て容器が主流となり価値がなくなっている。また、使い捨て容器ではメーカーからの一方的な物流になり、効率も悪いし物流費も嵩む。メーカーには出荷した商品の容器回収にも責任を取ってほしい。
- ・福岡地域では、大口酒造の5合びん「黒伊佐錦」がP箱入りで販売されているが、販売量が少ないためびんが回収されず空箱だけが小売店より帰ってくるので、空P箱の管理に費用が掛かっている。一番消費されている霧島酒造の「黒霧島」がリユースびんに変われば扱い量が増え事業として成立つ。
- ・九州は本格焼酎の生産拠点で一大消費地でもあるので、九州内出荷だけでもリユースびんに変えていただければ、自治体・商品流通・販売・消費者やびん商などにもメリットがあるのではないかと。

<業務用酒小売>

- ・使い捨て容器が多くなり、廃棄物の処理費用に頭を悩ませているのが現状で、リユースびんを増やしたいが私たちの力ではどうにもならない。
- ・「黒霧島」の廃びんはある程度の単位で有料で引き取っていただいているので、リユースされていると思っていたのですが、リユースされていないのではあればそれは問題です。

- ・「黒伊佐錦」のリユースびんは販売量が少ないため、選別する手間や保管スペースの無駄（保管スペースが少ない・土地の価格が高い・保管スペースの有効利用）が生じているので、量が多い「黒霧島」を中心に保管している。したがって、「黒伊佐錦」の入ってきた空P箱が邪魔になり、びん商も空Pだけでは回収してくれないので酒卸に引き取ってもらっている。
- ・「黒霧島」がリユースびんに変われれば、びん商も定期的に一升びんと混載で回収してくれるでしょうし小売としても空きびん置き場が効率よく有効に使える。
- ・メーカーの容器引き取りについて法律で回収責任を負わせるのが望ましいが、本格焼酎の生産地でも有り一大消費地の九州だけでも、びんリユースのシステムができることが望ましいのではないかと。

<びん商>

- ・絶滅危惧種に位置づけられているのが現状で、ほとんどのびん商がびんでは飯が食べられない状況に至っている。日本全国に仲間がいて静脈産業の中心を担ってきたが、崩壊してしまえば復活するのは難しいと考える。崩壊してしまえば、使い捨て容器ばかりになり結局はメーカーへの法的な義務が明示されることになるのではないかと。
- ・福岡地区でのリユースびんの現状は、一般小売店での一升びん回収は激減し業務用小売店のみの回収が主流で、量的にも減り生活ができなくなっている。平成16年から茶5合リユースびんが誕生したが、小売店が量的に少ないが故に積極的に回収されていないので事業にはなっていない。
- ・使い捨て容器に対しての回収義務やリユースびん促進の法的処置を求めているものの、びん業界や市民団体及びごみ処理負担に苦しむ地方自治体の声は政治には反映されていない。
- ・日本全国で歴史的に安心・安全な容器として、またリターナブルできる容器として親しまれてきた硝子びんが、経済だけの観点で廃れていくのはとても残念である。それに、一升・5合・4合等の御米を計る杓から生まれた日本の計量値がなくなっていくことを考えれば、日本固有の伝統文化が失われていくことでもあり、とても寂しいことである。

<地方自治体>

- ・容器包装リサイクル法により、ごみ処理コストが急増し自治体の財源を圧迫しているのが現状で、事業者の責任のウエイトを上げていただくため、議会でも法律改正に向けた意見書を採択し国に要望書を提出しているが、なかなか実現していない。
- ・循環型社会の構築には、リユース容器を増やすことと地産・地消の推進が欠かせない条件であると考えられるが、現場を預かる地方自治体の立場としては、びん商さんも酒店さんも廃棄物処理業者さんも業を営まれている住民ですので、リユース促進の極端な施策に踏み入ることは難しい。
- ・九州は本格焼酎を愛飲されている方が多く、地産・地消の観点からも望ましいので、九州圏のびんリユースシステムが民間で確立されることにたいしては応援していきたいと思っております。

福岡地域におけるリユースびん推進会議風景



Rびん応援店 緑提灯

